建設業

回答企業58企業

概　況

～業況判断ＤＩ値 全項目改善～

今期の業況判断ＤＩ値は、前回調査比15.6ポイント上昇の▲10.3と改善したが、前回調査予想値（3.5）を下回る結果となった。項目別では、売上・受注で60.3ポイント上昇の15.5、売上数量が62.0ポイント上昇の17.2、利益でも31.1ポイント増加の▲8.6と全項目で改善となった。

今期は公共工事の受注は少ない時期ではあるものの、一般住宅関連の受注は横ばいで推移。原材料・燃料費の高騰あるも価格転嫁により業況は改善されている。

分野別の状況

～総合的業況はやや改善で推移～

土木工事業は、災害工事の受注もあり売上が確保できた。ほぼ全ての材料費と燃料費の高騰で、利益は減少傾向にあり経費削減に努めている。

建設工事業は、一般住宅は資材・燃料・人件費の高騰により建設価格は過去最高となっている。

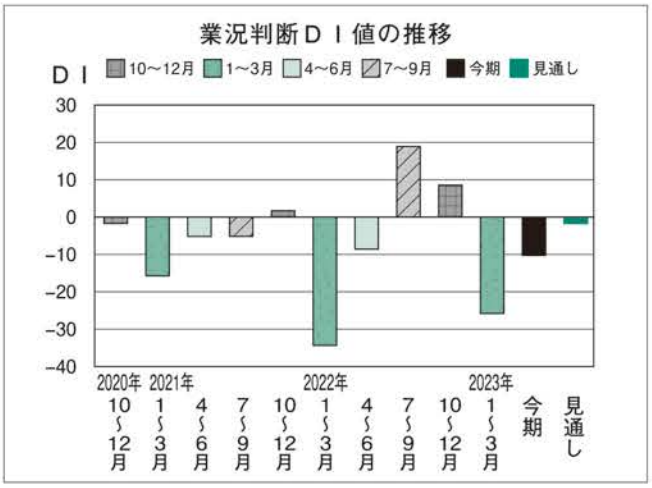
舗装工事業は、受注安定し売上・利益とも好調に推移した。

来期の見通し

～業況判断ＤＩ値 全項目で改善の見通し～

来期の見通し業況判断ＤＩ値は、今回調査比8.6ポイント上昇の▲1.7と改善の見通しである。項目別では、売上・受注で12ポイント低下の3.5、売上数量が12ポイント低下の5.2、利益は横ばいで▲8.6となった。

業況は大きな変化なく推移する見通しであるが、「材料費の価格」「人材不足」等問題もあり注視している。



製造業

回答企業33企業

概　況

～業況判断ＤＩ値 全項目で改善～

今期の業況判断ＤＩ値は、前回調査比39.4ポイント上昇の3.0と改善したが、前回調査予想値（9.1）を下回る結果となった。項目別では、売上・受注で45.5ポイント上昇の30.3、売上数量が54.5ポイント上昇の30.3、利益でも45.4ポイント上昇の12.1と全項目で改善した。

アフターコロナの影響を受け消費が回復基調にあるが、原材料および燃料費の高騰が続いている。業種間格差があるが、既に小規模の価格転嫁が図られ、総合的業況は大幅に改善された。

分野別の状況

～総合的業況 改善で推移～

食料品製造業は、さくら祭りや各種イベントの開催から概ね売上増加となった。原材料価格高騰により収益圧迫、商品価格改定等問題はあるが業況は改善傾向にある。

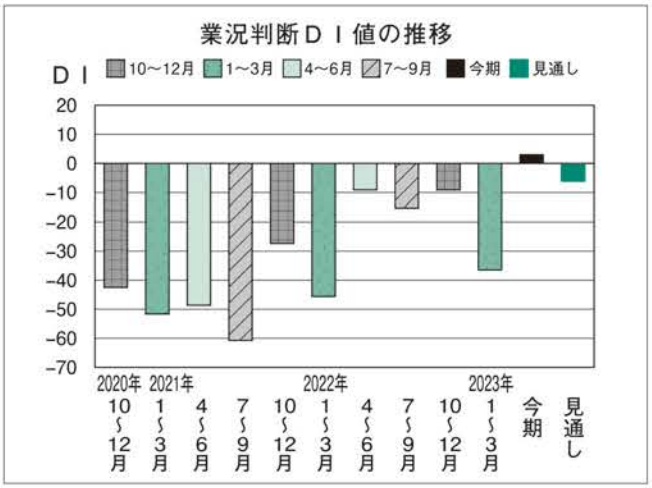
砕石製造業は、昨年の豪雨災害復旧工事が本格化し受注が多く堅調に推移。受注と生産量が同程度と在庫確保が難しい状況。

衣料、縫製業は、縫製原材料も高騰しており、売上は増加したが、利益は減少した。業界全体では在庫過多の状況となり6月の売上は減少。

鉄鋼加工製造業は、一定の受注はあったものの、原材料が依然として高値で推移していることから、利益減少となった。

来期の見通し

～業況判断ＤＩ値 やや悪化の見通し～

来期の見通し業況判断ＤＩ値は、今回調査比9.1ポイント低下の▲6.1とやや悪化の見通しである。項目別では、売上・受注で33.3ポイント減少の▲3.0、売上数量が33.3ポイント低下の▲3.0、利益でも21.2ポイント低下の▲9.1と全項目で悪化の見込みとなった。

アフターコロナによる各種イベント開催への期待感はあるが、原材料価格高騰と経費増加が継続しており、価格転嫁による値上げが売上高に与える影響を懸念している。